

独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センターの理念

私たちは人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供するとともに、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者の皆様がより良い医療を受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



左側より 亀尾看護部長、宇治原副院長、鈴木院長、古谷副院長、関戸統括診療部長、割田事務部長

第64号 目次

新任挨拶 (院長・副院長・副学校長)	1
お知らせコーナー	3
新規導入する3テスラMRI	
行事予定	3
看護学校卒業式	
特集 - 医師が語る疾患 -	4
第22回 妊娠糖尿病について	
産婦人科部長 奥田 美加	
連載	5
職員リレー紹介 第21回	
認知症ケアチーム	

病診連携施設紹介	6
ファミリア在宅クリニック	
外来担当医表／編集後記	7

発行 月：令和元年5月
 発行 行：独立行政法人国立病院機構
 横浜医療センター 広報委員会
 発行責任者：鈴木 宏昌
 住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
 電 話：045-851-2621
 FAX : 045-851-3902
 URL : <http://www.yokohama-mc.jp>



●当院携帯サイトはこちらから

新任挨拶

院長 鈴木 宏昌



平原史樹前院長の後を引き継ぎ2019年4月1日より院長に就任いたしました鈴木宏昌(スズキ ヒロマサ)です。よろしくお願いたします。

私は東京都下、自然豊かな青梅市の出身です。1979年大学入学に伴い横浜に転居、その後40年間横浜に住んでいます。1985年に横浜市立大学を卒業、大学病院での2年間の研修後、横浜市立大学麻酔科学教室(現生体制御・麻酔科学)に入り麻酔科医となりました。1987年(昭和62年)初の大学病院以外の勤務で当院に派遣されました。昭和40年頃建築の2代目病院が残っており、その入口前に「国立病院統廃合反対」の立て看板があった事、春の桜がとても美しかった事、タイル張りの手術室が残っていた事等が記憶に残っています。(写真参照)

その後、神奈川県内の複数の急性期病院勤務後、2003年より横浜市立大学麻酔科医局長となりました。当時は2004年開始の臨床研修必須化に伴う「医療崩壊」と言われた混乱期で、県内だけでなく千葉県や静岡県からも麻酔科医の派遣を要請される状況でした。この混乱期を乗り切るため、医局長と麻酔科医不足で運営に難渋していた複数の施設の麻酔科部長を併任し、その地域での手術室運営を保ちました。その後、当院勤務歴があった事等より当時の高橋病院長から誘われ、新病院開設の前年2009年(平成21年)にこの病院に戻りました。

私は多くの病院で勤務し、「手術室から病院を変える」事で病院運営に寄与してきました。当初、当院での勤務は新病院開設後の短期間だけ、と考えていました。しかし当院医療スタッフの真面目さ優しさが気に入り、その後10年間当院に勤務しています。この間、当院は大きく変わりました。病院機能が年々向上し「他病院に追い付く」のが目標でしたが、現在では「他病院に誇れる診療内容」と自負しています。

今回院長を引き継ぐに当たり、当院の理念である「患者中心の医療」「地域完結型医療」をさらに進め、「良質な高度医療を、患者さん方と共に作る病院」を目指す所存です。

昭和、平成、そして令和と3つの年代で当院に係わってきました。多くの病院勤務経験を活かし、さらに良い病院を作るよう尽力いたします。

今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



旧病院



タイル張りの旧手術室



現在の看護学校前付近

新任挨拶

副院長 古谷 良輔

平成31年4月1日付で副院長に就任しました古谷良輔です。

私は2010年4月当院の全面改築時に赴任し、救命救急センターを主宰して参りましたが、今後は兼務となり主に教育研修と医療安全を担当いたします。

当院は施設設備と臨床各科の指導体制が年々充実し、人気の高い初期臨床研修病院となっており、毎年優秀な研修医が全国から集まるようになりました。

病院の活力・競争力を強くしていくためには、その源泉となる人材力の向上を図ることが不可欠です。教育研修担当として、病院の財産である「ひと」を1人でも多く育てていきたいと思っております。医療現場では、エラーを誘発する要因は非常に多いにもかかわらず、その防護壁が少なく脆弱であり、かつエラーが直ちに事故に結びつくという特徴があります。エラーを分析すると、多くは「情報の遮断」が関与しています。当院でコミュニケーション・エラーが起こらない組織をぜひ構築したいと思っています。

今後も今まで通り、“Change or Die”つまり、「チャレンジしない限り将来はない」という気持ちは持ち続けたいと思っています。

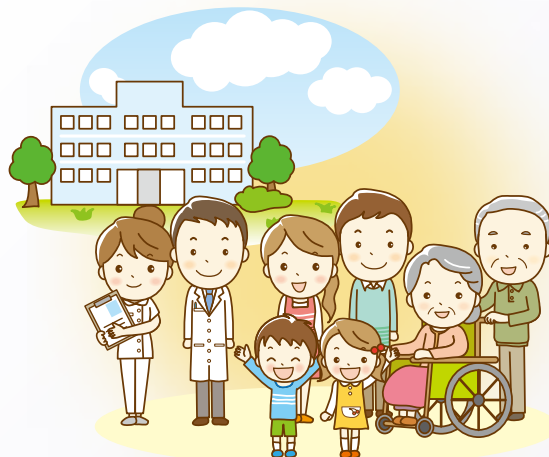
引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

横浜看護学校 副学校長 福田 優子

4月1日付で附属横浜看護学校の副学校長に昇任いたしました福田優子と申します。今、病院は「機能に応じて地域から求められる医療」、「治し、生活を支える医療」を提供する時代です。そのニーズに応えられる看護師を育成することを使命と捉え、教職員一丸となって学生の支援をしていきたいと思っております。

折しも令和元年という節目の年、後に振り返ったとき、「あの年は頑張って成果を出した、充実した年だった」と学生および教職員の記憶に残る年にしたいと思います。

当校は学校運営メンバーである神奈川県下の5つの病院の院長・看護部長のご協力のもとに成り立っています。講義や実習はもちろん、学生一人ひとりに合った就職ができるようご支援をいただいています。こうしたご協力により卒業生のほとんどがこれら5つの病院に就職し、活躍しています。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。



お知らせコーナー

MRI 高機能 3.0テスラMRI装置が導入されました

◆超電導磁気共鳴診断装置 Ingenia3.0T

本年4月に、高磁場（3.0テスラ）MRI装置（フィリップス社製Ingenia3.0T）を導入致しました。

従来あった1.5テスラMRI装置を3.0テスラMRI装置に更新したことによりこれまでよりも高画質かつ高速な撮像が可能となりました。

1. より高精度なMRI検査
2. 撮像時間の短縮
3. 70cmワイドボアで従来より解放感のある検査環境



フィリップス社製Ingenia3.0T

行事紹介

看護学校卒業式

- ・地域のみなさまの支えがあったからこそ、学びも深まり、技術も身についたと思います。これからは勉強に励み看護師として、貢献していきたいです。
- ・皆さまの支えがあり、看護師国家試験に合格することができました。皆さまに信頼される看護師となれるように努力してまいります。
- ・3年間お世話になりました。地域の皆さまのおかげで卒業することができました。4月からは看護師として、頑張っていきます。本当にありがとうございました。
- ・3年間沢山お世話になりました。ありがとうございました。4月からは新人ナースとして、頑張ります。どうぞよろしく願いいたします。
- ・3年間私たち学生を温かく見守ってくださり、ありがとうございました。今後は学生の時以上に熱心に様々なことに取り組みます。今後も応援よろしく願いします。
- ・地域の皆さまのご協力のおかげで卒業することが出来ました。これから、皆さまが安心して過せる様な看護師になれるよう努力していきます。



特集－医師が語る疾患－

第22回 妊娠糖尿病について

産婦人科部長 奥田 美加

横浜医療センターは、地域周産期母子医療センターとして、さまざまなハイリスク妊産婦の分娩を受け入れています。

ハイリスク妊産婦とは、母体に疾患があったり、赤ちゃんが早産や低体重で生まれたり、妊娠分娩に異常が発生する可能性の高い方のことです。当院では、全科の医師が協力して管理してくれますので、我々産婦人科も、健康に不安のある妊婦さんを安心してお受けすることができます。また、特にリスクがなかった妊婦さんでも、突然早産になったり赤ちゃんの具合が悪くなったりすることがあります。そんな時は、小児科医師の出番、急な事態にもすぐにかけて赤ちゃんの治療に当たってくれます。そんな環境なので、妊婦さんには安心してお産をしていただけたと思っています。

さて、今回は、ハイリスク妊産婦のひとつ、「妊娠糖尿病」について解説します。

血糖値が上がった時に、インスリンというホルモンが膵臓から分泌されて、血糖値を下げる能力を「耐糖能」といいます。妊娠中、特に妊娠後半期には、胎盤からのホルモンなどの影響により、インスリンに対する抵抗性が高まります。耐糖能が正常の女性では、その抵抗性に負けないようにインスリンが分泌されますが、妊娠糖尿病の方は、それがうまくいかず、血糖値が上がってしまいます。

糖尿病になりやすいリスクをお持ちの方や、妊娠経過により必要な方に対し、75gブドウ糖負荷試験で診断をします。

血糖値が高いままですと、赤ちゃんが育ちすぎたり（巨大児）、生まれてから呼吸障害や低血糖になったりします。赤ちゃんの将来の肥満や糖尿病に関連するともいわれています。ですから、妊娠していない時よりも厳重な血糖管理が必要になります。まず食事療法、それで不十分な場合はインスリンの注射により、血糖値を

早朝空腹時95mg/dL、食前100mg/dL、食後120mg/dL以下になるようコントロールします。当院では、糖尿病内分泌内科の医師が、妊娠中から産後までしっかり管理をします。2018年の分娩817名のうち、妊娠糖尿病でインスリンの治療をした方が68名、食事療法の方が51名と、決して少なくありません。食事内容を守り、毎日何回も注射をするのはとてもたいへんですが、赤ちゃんのために、妊婦さんは頑張っています。

妊娠糖尿病の方は、将来の2型糖尿病の発症リスクが高いと言われておりますので、お産後の再検査で異常がなくても、健康に気をつけてくださいね。



第21回 認知症ケアチーム

副看護師長 佐々木 博之

当院は認知症ケアの質の向上を目的として、2018年4月に認知症ケアチームを発足しました。本チームは認知症高齢者へきめ細やかなケアができるよう、病棟看護師を支援しています。認知症とは認知障害の一種であり、一度獲得された知能が、後天的な大脳の器質的障害のため進行的に低下する状態を指します。医学的には「記憶」の他に「見当識」「言語」「遂行機能」を含む認知障害や「人格変化」「物盗られ妄想」「うつ」「興奮」などを伴った症候群として定義されます。初期から「約束を忘れる」「献立通りの調理が困難」「運転が危険」などの生活障害をきたします。認知機能障害が進行すると、後期には「寝たきり」「尿便失禁」「嚥下困難」などがみられ更に介護が必要となります。

わが国では認知症高齢者の入院が増加し、在院日数は長期化しています。そして現場では多くの看護師が認知症症状への対応に困難を来しています。2016年度診療報酬改定において「身体疾患を有する認知症患者に対するケアの評価」として「認知症ケア加算1,2」が新設されました。これにより病院における認知症患者の適切な医療評価や、認知症ケアの質向上が期待されており、本チームも認知症ケアの質向上を目的に活動しています。

本チームの活動は以下の三点です。一点目は病棟看護師とのカンファレンスです。患者さんの病状や生活障害について情報を共有し、特に身体抑制解除に向けた取り組みについて話し合います。身体抑制の長期化はADL（日常生活行動）の低下や認知機能障害の低下を招きます。このような二次障害を予防するために、ケアの工夫について意見を出し合っています。二点目は療養環境の確認です。認知症は環境の変化によりせん妄（意識障害の一種）を発症しやすくなります。そのため患者さんの睡眠状況や、見当識を高めるために時計やカレンダーが設置されているか確認をしています。三点目は対応困難事例への個別的な介入です。ケア拒否やせん妄の長期化など対応に困難を来している認知症患者へ直接介入し、病棟看護師と協働して問題解決に取り組んでいます。今後はこれまで以上に患者さんに寄り添ったよりよいケアを提供できるよう、病棟看護師と協働していきたいと思えます。



筆者 前列左

病診連携施設紹介

ファミリア在宅クリニック

当院は2016年5月に戸塚駅東口に開院し訪問診療を行っております。「医療を通して患者の幸せを考える」を理念に、患者さんにとって何が最善か常に考えながら診療に当たっております。

戸塚区・泉区・港南区を中心に診療しており、現在では約200人の患者さんを担当し、小児から高齢者まで幅広く訪問しております。当院のこだわりとしては「スピーディな対応であること」、「24時間体制を十分に整えていくこと」です。そのため、診療圏は車で15分圏内としており、急を要する患者さんにも早急に対応できるように心がけております。

開院当初は私1人で診療を行っていましたが、2019年4月より常勤医師が2名、非常勤医師2名と充実してきており、よりよい医療を提供できるよう心掛けています。在宅医療を受ける患者さんの病気は幅広く、癌を始め認知症、神経難病、褥瘡などの皮膚疾患、お看取りなど多種多様な患者さんに対応させて頂いております。家庭医療専門医・在宅医療専門医を始めとする専門医が各々の力を発揮しチームとして、持続可能な診療体制を整えております。また当院の理念に共感してくれた看護師スタッフ、事務スタッフと協力し、これからも患者さんが安心して生活を営めるように努力していきたいと思っております。

この度、医師会の在宅拠点事業を担当させて頂くことになりました。高齢化を迎える患者さんの生活を支援していくには地域包括ケア、つまり医療と介護の情報連携が必要不可欠です。病院の先生と在宅医が顔の見える信頼関係を作り上げ、医療の情報を円滑にしていくことこそ地域包括ケアの要となると私は考えています。平原先生を始めとする横浜医療センターの皆様には患者さんの入院や日頃の連携など、いつもお助け頂き、頼りにさせて頂いております。患者さんが安心してこの地域で生活を営めるように、これからもより親密に顔の見える関係を作っていく、協力し合えるようにしていきたいと思っております。今後とも宜しくお願い致します。



院長 竹田 亮平



ファミリア在宅クリニック
famiria home care clinic

ファミリア在宅クリニック

〒244-0002

神奈川県横浜市戸塚区矢部町29カイビル6階

TEL : 045-870-3686 FAX : 045-870-3685



診療科		月	火	水	木	金	
外来受付 A	小児科	鈴木 陽一	福山 綾子	只木 弘美	鈴木 陽一	塩谷 裕美	
		高橋 英里佳	小形 亜也子	伊波 勇輝	矢内 貴憲	本井 宏尚	
		朱田 貴美	大山 里恵	高島 博太	小原 真奈	鈴木 裕二	
	心臓血管外科	益子原 幸宏	休診日(手術日)	交代医師	休診日(手術日)	久米 悠太	
	形成外科	休診日	村下 一晃	休診日(手術日)	村下 一晃	村下 一晃	
	整形外科	渡邊 竜樹	日塔 寛昇	渡邊 竜樹	日塔 寛昇	佐藤 雅経	
		小林 明裕	小林 秀郎	小林 秀郎	佐藤 雅経	小林 明裕	
		堀 莉彩	日野 勝利	久富 健介	堀 莉彩	中村 玲菜	
		久富 健介			中村 玲菜		
	外来受付 B	総合内科	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師
糖尿病内分泌内科		小西 裕美	交代医師	大久保 和哉	宇治原 誠	小松 裕美子	
脳神経内科		小島 麻里	土橋 裕一	高橋 竜哉	山崎 舞子	上村 直哉	
腎臓内科		松下 啓	谷口 倫子	松下 啓	森田 隆太郎	休診日	
呼吸器内科		柴田 祐司	柴田 祐司	田村 祐規	休診日	榎原 基史	
消化器内科		中島 聡美 (第1・3・5曜日)	内山 崇 (第1・3・5曜日)	田邊 浩紹 (第1・3・5曜日)	細矢 さやか (第1・3・5曜日)	山田 英司 (第1・3・5曜日)	
		野中 敬 (第2・4曜日)	宮澤 志朗 (第2・4曜日)	小松 達司 (第2・4曜日)	松島 昭三 (第2・4曜日)	乾 麻美 (第2・4曜日)	
循環器内科		岩出 和徳	森 文章	岩出 和徳	岩出 和徳	森 文章	
膠原病・リウマチ内科		井畑 淳	渡邊 俊幸	井畑 淳	井畑 淳	井畑 淳	
外科・消化器外科		清水 哲也	関戸 仁	木村 準	関戸 仁	休診日 (手術日)	
			太田 郁子 (乳腺外科)	交替医師			
呼吸器外科		休診日	野間 大督	休診日	渡部 克也	交代医師	
脳神経外科		休診日 (手術日)	岡田 富 (第1・3・5曜日)	瓜生 康浩 (第1・3・5曜日)	休診日 (手術日)	交代医師	
		宮原 宏輔 (第2・4曜日)	田中 悠介 (第2・4曜日)		宮原 宏輔 (第1・3・5曜日) 谷野 慎 (第2・4曜日) 藤津 和彦		
外来受付 C	耳鼻咽喉科	佐々木 祐幸	赤羽 邦彬	佐々木 祐幸	赤羽 邦彬	交代医師	
	眼科	木村 正彦	犬伏 ルル	岡部 智子	木村 正彦	田島 彬子	
		毛塚 由紀子	岡部 智子	田島 彬子	犬伏 ルル	毛塚 由紀子	
	泌尿器科	井上 雅弘	平井 耕太郎	休診日 (手術日)	平井 耕太郎	井上 雅弘	
		石川 達郎	藤岡 あずみ		藤岡 あずみ	石川 達郎	
	皮膚科	上田 喬士	上田 喬士	休診日 (手術日)	上田 喬士	上田 喬士	
佐々木 梓		佐々木 梓		佐々木 梓	佐々木 梓		
外来受付 D	精神科	休診日	休診日	交代医師	交代医師	交代医師	
	産婦人科	婦人科	向田 一憲	奥田 美加	窪田 與志	乗杉 輝彦	鈴木 理絵
			若林 玲南	高山 智子	下向 麻由	交代医師	榎 知子
		産科	楚南 侑子		上西園 幸子		
	歯科口腔外科	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	
			根岸 明秀		根岸 明秀		
		吉井 悠		吉井 悠			
専門外来 (予約制)	脳神経内科	物忘れ外来	頭痛外来 (第2・4曜日)				
	膠原病・リウマチ内科			関節超音波			
	呼吸器内科					アスベスト外来 (第1曜日)	
	脳神経外科			脳神経血管内治療外来 (畑岡 峻介)			
	緩和ケア内科 (ペイン・緩和)		小川 賢一				
	放射線科	杉山 正人	杉山 正人	杉山 正人	幡多 政治	杉山 正人	
	精神科	物忘れ外来					

初診受付：(平日) 8:30～10:30
 休診日：土曜日・日曜日・祝日、12月29日～1月3日
 ※急患は随時受け付けております。来院前に病院にご連絡下さい。(代表)045-851-2621
 ※ 青色の枠の担当医 は、完全予約制となります。

◆編集後記◆

この春、100名を超える採用者、90名近くの看護学生を迎え、鈴木新院長の下、新たな気持ちで新年度スタートしました。

今回の表紙は、急遽幹部職員にお願いして敷地内にある桜の木の下で写真を撮りました。しかし、顔に影が映り残念な感じに(涙)。

平成最後の発行の予定が、新元号最初の発行となってしまいました。何はともあれ、今後とも横浜医療センターをよろしくお願い致します！



ちなみにこの写真は東京都内のある場所の夜桜